

# 平成27年度資源評価報告書(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成27年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 ヤナギムシガレイ

学名 *Tanakius kitaharae*

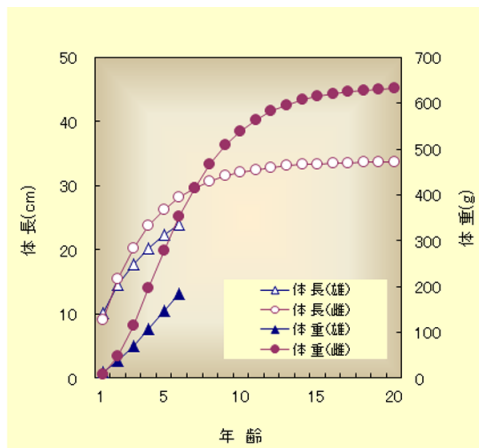
系群名 太平洋北部

担当水研 東北区水産研究所



## 生物学的特性

寿命：雄6歳、雌20歳（ほとんどは10歳以下）  
成熟開始年齢：雄：2歳（大部分）、雌：2歳（一部）、3歳（100%）  
産卵期・産卵場：1～6月（ピークは1～3月）、水深100m前後の沿岸各地  
索餌期・索餌場：周年、水深50～400mの砂泥域  
食性：主に多毛類と甲殻類  
捕食者：不明

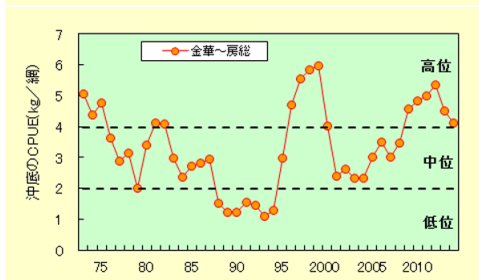
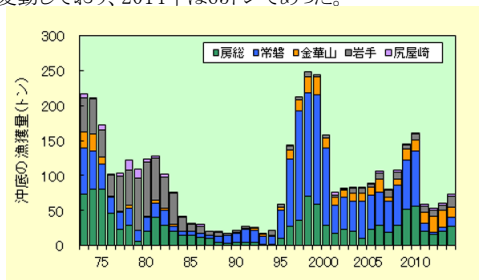
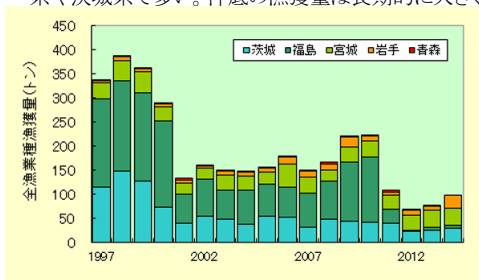


## 漁業の特徴

主に沖合底びき網漁業（沖底）で漁獲され、次いで小型底びき網漁業による漁獲が多い。主漁場は水深50～200mで、繁殖期の冬場は80～100m、その他の時期は120～140mで漁獲が多い。

## 漁獲の動向

漁獲量は1997～1999年には300トンを超えていたが、2001年には133トンにまで減少した。その後2010年にかけて増加したが、東日本大震災以降再び減少し、2014年は97トンであった。県別では漁獲量の大部分を占めている福島県や茨城県が多い。沖底の漁獲量は長期的に大きく変動しており、2014年は65トンであった。



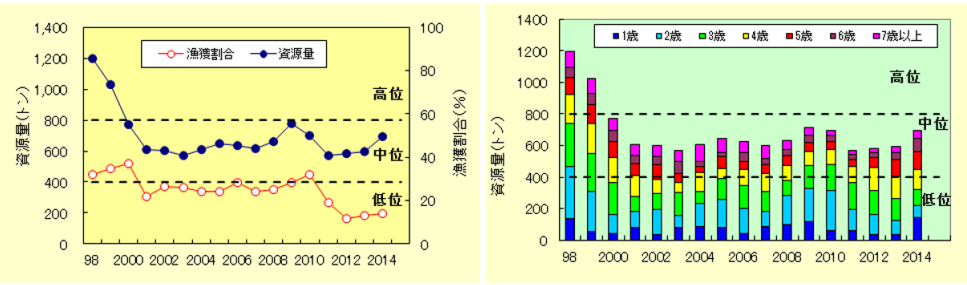
## 資源評価法

沖底のCPUEと資源量から資源状態を判断した。なお、資源量は1998～2014年に茨城県又は福島県で漁獲されたヤナギムシガレイの年齢別漁獲尾数を基にコホート解析により推定した。

## 資源状態

資源量は1998年以降減少し、2001年以降は570～780トンで推移している。2014年は696トンであった。沖底のCPUEは2001年以降増加傾向にあったが、2013、2014年は減少している。資源水準は、資源量と沖底のCPUEの最大値と0の間を3等分して上から高位、中位および低位とし、中位と判断した。動向は、最近5年間（2010～2014年）の資源量と沖底CPUEの推移から横ばいと判断した。





管理方策

本資源は資源量および年齢組成が比較的安定している。このため、震災以前(2006～2010年)の漁獲圧以上に漁獲圧を高めないことを管理目標とし、2006～2010年の漁獲圧の平均値をやや下げた0.8F2006-2010を管理基準値として2016年ABCを算定した。

| 管理基準          | Limit/Target | F値   | 漁獲割合 (%) | 2016年ABC (トン) |
|---------------|--------------|------|----------|---------------|
| 0.8F2006-2010 | Limit        | 0.38 | 27       | 249           |
|               | Target       | 0.31 | 22       | 206           |

- Limitは管理基準で許容される最大レベルの漁獲量
- Targetは資源変動の可能性やデータの誤差に起因する評価の不確実性を考慮し、より安定的な資源の回復が期待される漁獲量
- ABC算定規則1-3)-(2)を用い、 $F_{limit} = \beta_1 \cdot F_{2006-2010}$ 、 $F_{target} = \alpha \cdot F_{limit}$ とし、 $\beta_1$ には0.8、係数 $\alpha$ には標準値0.8を用いた
- F2006-2010は2006～2010年の漁獲係数の平均値
- 漁獲割合は2016年漁期のABC/資源量

資源評価のまとめ

- 沖底のCPUEと資源量から資源状態を判断した
- 資源水準は中位、動向は横ばい
- 資源量は2001年以降安定して推移しており、2014年は696トンであった

管理方策のまとめ

- 震災以前(2006～2010年)の漁獲圧以上に漁獲圧を高めないことを管理目標として2016年ABCを算定した

執筆者: 成松庸二・服部 努・柴田泰宙

資源評価は毎年更新されます。